

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

網走市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道網走市

3 地域再生計画の区域

北海道網走市の全域

4 地域再生計画の目標

網走市の人口は、1980年の国勢調査結果44,777人をピークに、1996年には減少局面に入っており、住民基本台帳によると2021年5月末時点で34,145人となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、総人口は2040年には27,896人まで減少するものとされている。

年齢3区分人口では、15歳から64歳までの生産年齢人口が1990年を、15歳未満の年少人口が1980年をピークに減少傾向である一方で、65歳以上の老年人口は現在も増加が継続しており、2021年5月末においては、生産年齢人口が19,337人、年少人口が3,582人、老年人口が11,226人となっている。社人研の推計では2025年に老年人口が11,733人、2045年には高齢化率が41.6%でそれぞれピークを迎えるとされている。

網走市が人口減少に転じた1990年代では転出超過による社会減少が人口減少の主な要因であったが、少子高齢化の進展により、2000年代中盤からは死亡数が出生数を上回ったことで、自然減少もあいまって本格的な人口減少局面に入っている。2020年において、218人の自然減、298人の社会減となっている。また、合計特殊出生率については、令和元年に1.47となっており、国・県平均値を上回っている。

一方で、網走市は、1989年に開学した東京農業大学生物産業学部の存在により、10歳代後半から20歳代前半の人口が比較的多く、全国・全道の人口構造とは異なる3つ目の山をもつことが特長である。

人口減少・少子高齢化が急速に進展すると、経済規模の縮小（地域内外を問わず）の中での競争激化、労働力の減少、顧客の減少、企業数の減少、財政状況の悪化等が危惧される。

このような人口減少社会において、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる活力あるまちをつくるためには、人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造そのものを変えていこうとする積極戦略と、今後数十年間の人口減少は避けられないことを踏まえ、政策誘導により交流・関係人口拡大や転出抑制・転入増加を図り、人口減少社会における持続可能な社会システムの再構築を図る調整戦略を同時並行的に進める必要がある。

このため、次の事項を本計画期間における基本目標とする。

- ・基本目標 1 地域づくりを担う組織との協働による、誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出
- ・基本目標 2 観光や健康・スポーツなど、網走の地域特性を活かした交流・関係人口の拡大
- ・基本目標 3 若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり
- ・基本目標 4 東京農業大学、日本体育大学などと連携し、地域を支える人材の育成・確保
- ・基本目標 5 誰もが活躍し、安心して暮らすことができる時代に合った共生型地域社会づくり

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	市内事業所の従業員数	15,757人	16,000人	基本目標 1
イ	観光入込客数	147万人／年	199万人／年	基本目標 2
ウ	合計特殊出生率	1.51	1.65	基本目標 3
エ	全国学力調査の 全国平均正答率との差	小学生 △2.7割 中学生 △0.9割	0割 (全国平均)	基本目標 4
エ	全国体力調査の	小5男子 0.2割	0割	基本目標 4

	全国平均点との差	小5女子 1.3歳 中2男子△0.8歳 中2女子△3.0歳	(全国平均)	
オ	健康寿命	男 79.19歳 女 83.06歳	男 79.50歳 女 84.39歳	基本目標 5

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

網走市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 地域づくりを担う組織との協働による、誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出事業

イ 観光や健康・スポーツなど、網走の地域特性を活かした交流・関係人口の拡大事業

ウ 若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり事業

エ 東京農業大学、日本体育大学などと連携し、地域を支える人材の育成・確保事業

オ 誰もが活躍し、安心して暮らすことができる時代に合った共生型地域社会づくり事業

② 事業の内容

ア 地域づくりを担う組織との協働による、誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出事業

網走市の強みである一次産業の振興策に積極的・継続的に取り組むとともに、多様で付加価値を高める産業の創出を促進することにより、社会経

済環境の変化にも耐え得る社会基盤の構築と誰もが安心して働ける雇用の場の創出を図る事業。

【具体的な事業】

- ・ブランド化と高付加価値化の推進
- ・地場産品の販路拡大に向けた支援
- ・若者の就労促進 等

イ 観光や健康・スポーツなど、網走の地域特性を活かした交流・関係人口の拡大事業

網走市の自然・文化・歴史・食などの豊かな地域資源や地域特性を活かした、体験型観光など魅力あるコンテンツの開発や提供、情報発信力を強化するとともに、スポーツをはじめ芸術文化など、さまざまな分野での合宿や大会等の誘致に係る取り組みを強化するほか、東京農業大学が有する「学び」などの強みを活かした取り組みを推進し、国内外からの交流・関係人口の拡大を図る事業。

【具体的な事業】

- ・観光資源の磨き上げと開発による魅力向上
- ・スポーツ・芸術文化を切り口とした交流・関係人口の拡大
- ・広域連携による国外観光プロモーションの展開 等

ウ 若い世代が健康で、希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり事業

出産・子育てに係る経済的・精神的負担の軽減などに取り組み、子育て世代がその希望に応じ、安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるような環境の充実を図る事業。

【具体的な事業】

- ・地域と連携した周産期・小児医療提供体制の充実
- ・妊娠期から子育て期の切れ目のない支援
- ・子育て世代への学習機会の提供 等

エ 東京農業大学、日本体育大学などと連携し、地域を支える人材の育成・確保事業

東京農業大学や日本体育大学と連携し、地域課題の解決とこれからの網

走市を担う人材を育成するとともに、障がい者スポーツへの理解を深め、障がい者や高齢者にとっての優しいまちづくりと、スポーツ振興による市民の健康増進を目指す事業。

【具体的な事業】

- ・ 地元に着する人材の確保
- ・ 多様な組織との連携による地域課題への取り組み
- ・ 日本体育大学附属高等支援学校が行う特別支援教育への支援 等

オ 誰もが活躍し、安心して暮らすことができる時代に合った共生型地域社会づくり事業

誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを進めるため、市民の安全・安心な居住空間・交通空間の確保に努めるとともに、住み慣れた地域で健康に暮らし続けられる取り組みを進める事業。

【具体的な事業】

- ・ 持続可能な公共交通ネットワークの形成
- ・ 開業医誘致に向けた取り組み
- ・ 地域コミュニティ活動の推進 等

※なお、詳細は第2期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

548,200千円（2021年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に、産学官金労等で組織する「網走市選択する未来会議」で進捗状況を把握するとともに、取り組みの検証・改善を行う。また、検証結果等について市公式サイトにて公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで